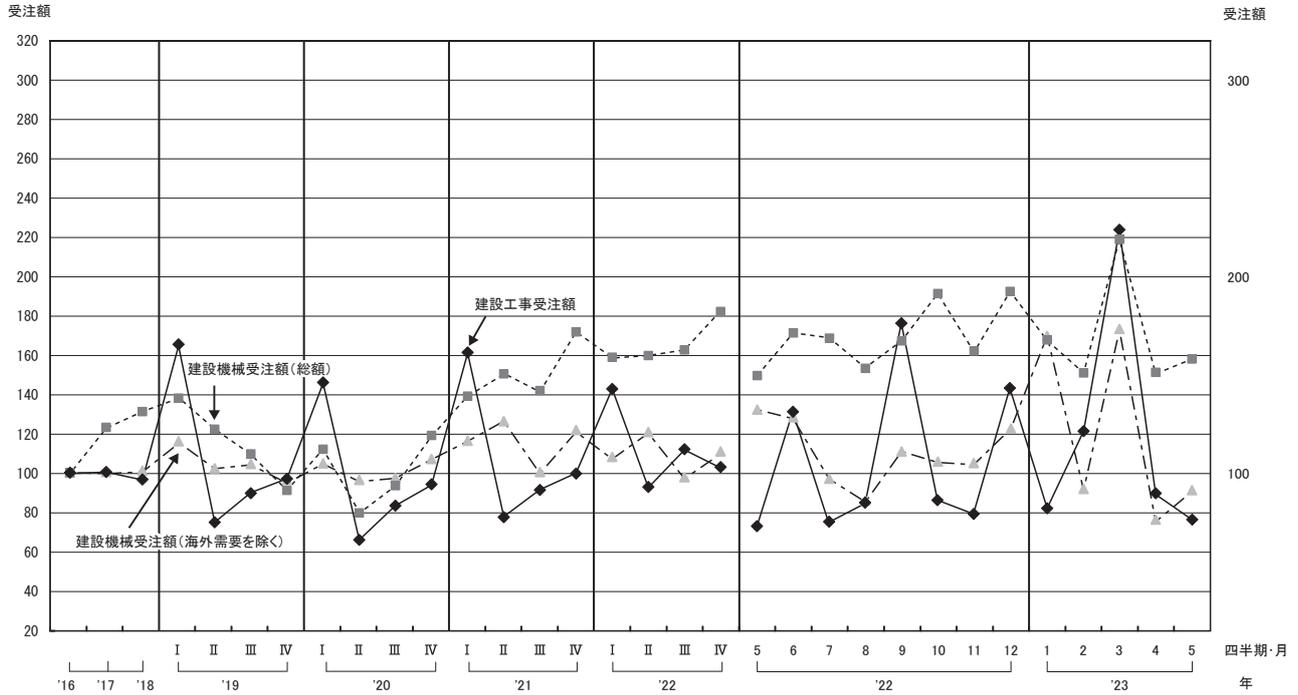


建設工事受注額・建設機械受注額の推移

建設工事受注額：建設工事受注動態統計調査(大手50社) (指数基準 2016年平均=100)
 建設機械受注額：建設機械受注統計調査(建設機械企業数24前後) (指数基準 2016年平均=100)



建設工事受注動態統計調査(大手50社)

(単位：億円)

年月	総計	受注者別						工事種別		未消化工事高	施工高
		民間			官公庁	その他	海外	建築	土木		
		計	製造業	非製造業							
2016年	146,991	99,541	17,618	81,923	38,894	5,247	3,309	98,626	48,366	151,269	134,037
2017年	147,828	101,211	20,519	80,690	36,650	5,183	4,787	99,312	48,514	165,446	137,220
2018年	142,169	100,716	24,513	76,207	30,632	8,561	5,799	95,252	46,914	166,043	141,691
2019年	156,917	114,317	24,063	90,253	29,957	5,319	7,308	109,091	47,829	171,724	150,510
2020年	143,170	97,457	19,848	77,610	35,447	5,225	4,175	91,725	51,443	171,740	141,261
2021年	157,839	111,240	22,528	88,713	38,056	4,671	3,874	106,034	51,806	192,900	137,853
2022年	165,482	119,900	33,041	86,862	33,436	5,252	6,898	114,984	50,496	207,841	130,901
2022年 5月	8,930	6,695	2,012	4,683	1,038	386	812	6,290	2,640	201,369	8,812
6月	15,741	11,290	3,252	8,038	2,525	465	1,462	11,414	4,327	202,288	14,177
7月	9,176	6,529	2,073	4,456	1,839	348	460	6,310	2,865	202,222	9,335
8月	10,334	8,302	3,261	5,042	1,451	362	220	7,711	2,624	202,166	10,413
9月	21,617	13,586	3,925	9,661	5,298	680	2,052	13,970	7,647	208,186	15,244
10月	10,520	7,331	1,341	5,991	2,426	413	351	7,400	3,120	208,774	9,760
11月	9,636	6,849	1,908	4,941	2,121	385	282	6,736	2,900	206,833	11,819
12月	17,593	14,275	5,184	9,091	3,208	540	-430	13,048	4,544	207,841	16,317
2023年 1月	10,021	6,986	1,556	5,430	2,452	336	248	6,867	3,154	207,251	10,213
2月	14,867	9,285	1,928	7,358	5,010	372	199	9,662	5,204	209,850	12,419
3月	27,481	18,606	4,053	14,553	7,409	674	791	17,187	10,294	214,894	21,223
4月	10,993	8,354	2,034	6,320	2,003	528	107	7,807	3,186	215,556	9,294
5月	9,304	6,854	1,807	5,047	1,772	345	332	6,125	3,179	-	-

建設機械受注実績

(単位：億円)

年月	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	22年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	23年 1月	2月	3月	4月	5月
総額	17,478	21,535	22,923	20,151	17,646	26,393	29,024	2,177	2,498	2,457	2,233	2,439	2,790	2,361	2,804	2,445	2,198	3,197	2,214	2,308
海外需要	10,875	14,912	16,267	13,277	10,966	18,737	21,816	1,450	1,791	1,926	1,766	1,832	2,211	1,788	2,130	1,509	1,694	2,246	1,795	1,807
海外需要を除く	6,603	6,623	6,656	6,874	6,680	7,656	7,208	727	707	531	467	607	579	573	674	936	504	951	419	501

(注) 2016～2018年は年平均で、2019～2022年は四半期ごとの平均値で図示した。
 2022年5月以降は月ごとの値を図示した。

出典：国土交通省建設工事受注動態統計調査
 内閣府経済社会総合研究所機械受注統計調査

主要建設資材価格の動向

1. はじめに

建設資材価格の動向について、(一財)経済調査会発行の『月刊積算資料』で発表している2023年6月調査結果を用いて考察した。

表一は、建設資材28資材の東京地区(大口価格)の価格推移である。セメント、生コンクリート、アスファルト混合物は前年同月比で20ポイント程度の大幅上昇となっているが、ウッドショックの影響を受け大幅に上昇していた建築用木材(正角材)価格は世界的に需要が落ち着いたことで2022年下期から軟調に推移、前年

同月比で20ポイントを超える下落となる等、昨年の高騰局面からは変化が見られる。原材料コストや需給の動向により資材間で温度差が生じる状況となっている。

2. 主要建設資材価格の動向

主要建設資材の価格動向(2023年6月調べ、東京地区・大口価格)は以下のとおり。

表一 主要建設資材価格推移(東京地区・大口価格)

円(消費税抜き)

資材名	規格	単位	2022年 6月調べ	2022年 9月調べ	2022年 12月調べ	2023年 3月調べ	2023年 6月調べ	変動(前年同月比)
灯油	スタンド 18L 缶	缶	1,836	1,854	1,818	1,818	1,836	
A重油	(一般) ローリー	KL	83,000	83,000	84,500	84,500	86,500	+3,500円(+4.2%)
ガソリン(石油諸税込)	レギュラー スタンド	L	149	148	149	149	149	
軽油(石油諸税込)	ローリー	KL	116,000	116,000	117,500	117,500	119,500	+3,500円(+3.0%)
異形棒鋼	SD295・D16	t	120,000	115,000	115,000	117,000	118,000	-2,000円(-1.7%)
H形鋼(細幅)	200×100×5.5×8mm(SS400)	t	120,000	123,000	123,000	123,000	123,000	+3,000円(+2.5%)
H形鋼(広幅)	300×300×10×15mm(SS400)	t	120,000	123,000	123,000	123,000	123,000	+3,000円(+2.5%)
普通鋼板(厚板)	無規格 16~25mm 3×6 フィート	t	140,000	145,000	145,000	145,000	145,000	+5,000円(+3.6%)
セメント	普通ポルトランド パラ	t	11,800	11,800	12,800	12,800	15,800	+4,000円(+33.9%)
コンクリート用碎石	20~5mm	m ³	4,950	4,950	4,950	5,100	5,100	+150円(+3.0%)
コンクリート用砂	細目洗い	m ³	5,000	5,000	5,150	5,150	5,150	+150円(+3.0%)
クラッシャー	40~0mm	m ³	4,750	4,750	4,750	4,900	4,900	+150円(+3.2%)
再生クラッシャー	40~0mm	m ³	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	
生コンクリート	強度 21 スランプ 18cm 20(25)mm	m ³	15,200	15,200	18,200	18,200	18,200	+3,000円(+19.7%)
アスファルト混合物	密粒度 13mm	t	9,700	11,000	11,800	11,800	11,800	+2,100円(+21.6%)
再生加熱アスファルト混合物	再生密粒度 13mm	t	8,700	9,500	9,800	9,800	9,800	+1,100円(+12.6%)
ストレートアスファルト	針入度 60~80 ローリー	t	120,000	117,000	114,000	95,000	96,000	-24,000円(-20.0%)
PHCパイプ A種	350×60mm×10m	本	32,900	32,900	37,000	37,000	37,000	+4,100円(+12.5%)
ヒューム管	外圧管 B形 1種 呼び径 300mm	本	10,500	11,300	11,300	11,300	11,300	+800円(+7.6%)
鉄筋コンクリートU形	300B 300×300×600mm	個	1,580	1,720	1,720	1,720	1,720	+140円(+8.9%)
コンクリート積みブロック	滑面 250×400×350mm	個	640	640	640	640	640	
正角材 杉(KD)	3.0m×10.5×10.5cm 特1等	m ³	115,000	110,000	95,000	92,000	85,000	-30,000円(-26.1%)
平角材 米松(KD)	4.0m×10.5, 12×15~24cm 特1等	m ³	120,000	120,000	110,000	105,000	89,000	-31,000円(-25.8%)
コンクリート型枠用合板	無塗装品ラワン 12×900×1,800mm	枚	2,000	2,200	2,200	2,100	1,950	-50円(-2.5%)
電線・ケーブル	CV 600V 3心 38mm ²	m	1,785	1,670	1,746	1,824	1,746	-39円(-2.2%)
鉄スクラップ	ヘビー H2	t	46,500	37,500	36,500	44,500	40,000	-6,500円(-14.0%)
ガス管	白管ねじなし 25A	本	2,520	2,860	2,860	2,860	2,860	+340円(+13.5%)
塩ビ管	一般管 VP 50mm	本	1,440	1,440	1,640	1,640	1,640	+200円(+13.9%)

出典：(一財)経済調査会『月刊 積算資料』

(注) 毎月10日までに得られた調査結果

統計

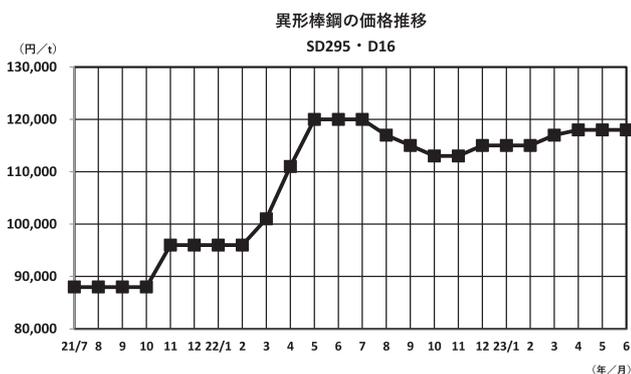
(1) ガソリン（スタンド渡し）

5月中旬に元売卸価格が大幅に上昇したことを受け、多くの販売業者が店頭価格の引き上げに動いた。価格は、レギュラーでL当たり149円（消費税抜き）どころと前月比1円の上伸。6月以降、段階的に補助金支給額が減額されることから、市場価格はじり高で推移する公算が大きい。先行き、強含みで推移する見通し。

(2) 軽油（ローリー）

価格は、KL当たり11万9,500円どころと前月比3,500円の上伸。6月から政府の補助金が減額された影響で卸値の値上がりが続く、流通業者が採算重視の姿勢を強めたことから、コスト上昇分の価格転嫁が進んだ。OPECプラスは追加減産を打ち出しており、原油相場は当面、底堅く推移するとの見方が多い。先行き、強含み推移の見通し。

(3) 異形棒鋼



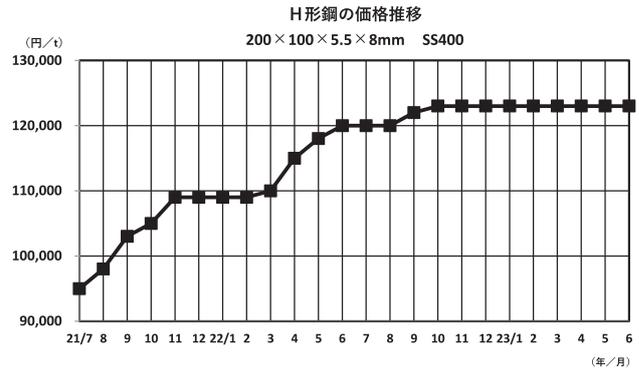
需要は、首都圏の大型再開事業等が端境期を迎え、中小物件も精彩を欠いた状況が続いている。荷動きは閑散とし、先行き、需要回復は不透明感が増している。

価格は、SD295・D16でt当たり11万8,000円どころと、前月比横ばい。主原料の鉄スクラップ価格が軟調に推移するなかでも、電気料金や運搬費のコスト上昇に対するメーカー各社の危機感強い。そのため、春先に表明した値上げを早期に進展させたい意向を示し、流通側も採算悪化の回避には販価の引き上げが必要と認識している。一方、荷動きのさえない状況が当面続くとみる需要者側は当用買いに徹していることから、価格交渉は難航している。先行き、横ばいで推移する公算が大きい。

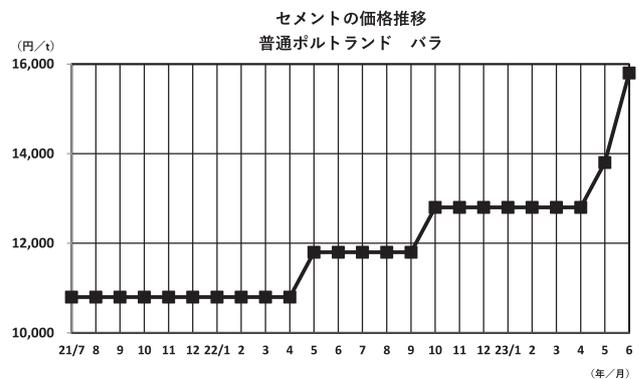
(4) H形鋼

価格は、200×100でt当たり12万3,000円どころと前月比横ばい。メーカー各社は、4月以降に3,000円の値上げを打ち出し、販売側も追従する意向を示しているものの、原料相場の下押しで価格交渉はこう着状態が続いている。

販売側は、引き続き値上げ未達分の浸透を図る構えであるが、中小物件の需要が低迷する中で需要者側の抵抗は根強く、価格交渉は難航する見通し。目先、横ばい推移の公算大。



(5) セメント



セメント協会まとめによる4月の東京地区セメント販売量は、前年同月比13.3%減の21万97t。都市部における再開事業が需要を下支えているものの、それ以外の生コン向け出荷が低調に推移したことなどを背景に、10%を超える減少となった。

価格は、普通ポルトランド・バラで前月比t当たり2,000円上昇し1万5,800円。石炭価格の高騰を背景に、メーカー側が2022年10月出荷分から3,000円以上の値上げに取り組む中、採算悪化に危機感を強めた販売側の売り腰は強まり、昨年度末以降に交渉が本格化。需要者側は、当初大幅値上げに抵抗を示していたが、販売側の強気の販売姿勢を受けて段階的に値上げを受け入れたため、2カ月連続で価格は上昇し、ほぼ満額が浸透した。先行き、現行価格圏内を横ばいで推移する見通し。

(6) コンクリート用砕石

都心部の大型建築物向け生コン出荷に下支えされ、需要は堅調に推移している。

価格は、20～5mmでm³当たり5,100円と前月比横ばいで推移。販売側は、電気料金や運搬費の上昇、工場経費の増加などに伴うコスト増を転嫁すべく、需要者に対して販売価格の引き上げを求めている。しかしながら、主たる需要者である生コンメーカーは、セメント価格の大幅な値上がりを受け、生コン価格の引き上げを優先課題とし交渉を先送り。一部に値上げを受け入れる機運はあるものの、市況を押し上げるまでには至っていない。

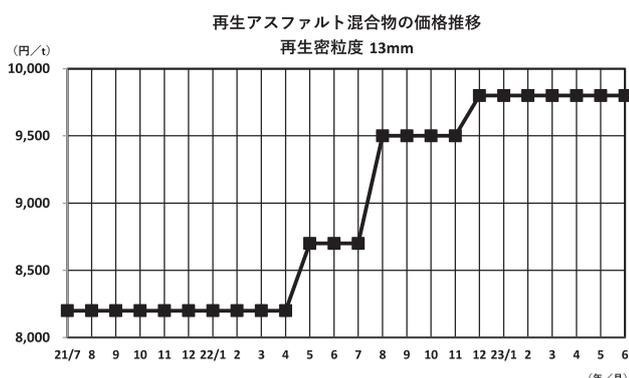
販売側は、採算悪化を回避すべく今後も売り腰を強める構えだが、需要者側の反応は鈍い。当面、横ばいで推移しよう。

(7) 生コンクリート

東京地区生コン協組調べによる5月の出荷量は前年同月比13.9%減の19万8,051 m³となった。都心部の再開発事業の本格化により今年度の需要は底堅いと見込まれているものの、施工現場の人手不足などによる工程遅れを背景に、年度明け直後の出荷実績は低調に推移している。

価格は、21-18-20で前月比横ばいのm³当たり1万8,200円どころ。同協組は、セメントや骨材などの原料コスト上昇による採算悪化を改善すべく、4月引き合い分から2,000円の値上げとともに、コスト変動を速やかに販売価格に反映させる新たな契約方式の導入に取り組んでいる。しかし、足元の新規引き合いが低調なことから、需要者側の反応は鈍い。価格交渉の本格化にはしばらく時間を要する見通しで、当面、横ばい。

(8) アスファルト混合物

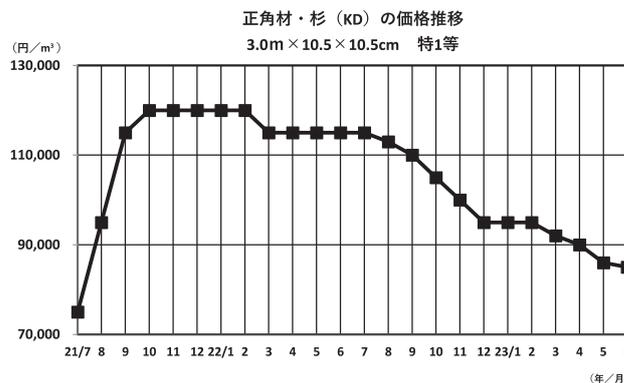


4月の都内向け加熱アスファルト混合物の製造量は11万8,213 tと前年同月比4.5%増(東京アスファルト合材協会調べ)。民需は精彩を欠くものの、高速道路の大型補修や空港工事向けの出荷が下支えとなり前年同月を上回った。

価格は、再生密粒度(13)でt当たり9,800円どころ。販売側は、これまでの値上げ未転嫁分の獲得に加え、今後のエネルギーコスト上昇や骨材メーカーによる値上げ要求などにより採算悪化を危惧。さらなる上積み求めて価格交渉を継続する構え。一方、主原料のストアス価格は昨年夏のピーク時に比べ下落しており、需要者側は値引きを求めている。両者の思惑が異なることから、価格交渉は平行線をたどり、目先、横ばい推移の見通し。

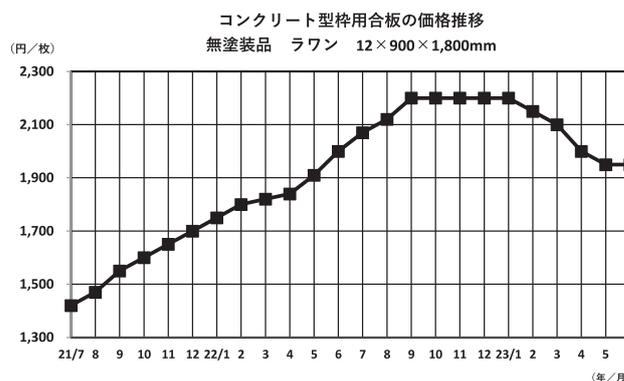
(9) 木材 正角材・杉

例年、新築木造住宅向け引き合いが増える時期だが、依然として木材の荷動きはさえない。市場での消費マインドの冷え込みによる先行きの不透明感から、販売側では価格を引き下げる動きが一部のみられた。価格は、正角材・杉(KD) 3.0m×10.5×10.5cm 特1等



でm³当たり8万5,000円と前月比1,000円続落。コスト増から卸価格は底値との見方が大勢を占めており、先行き、横ばい推移。

(10) コンクリート型枠用合板



主要産地の輸出が回復しつつあり、国内流通筋では産地価格が底を打ったとの見方が多い。無塗装品ラワンの価格は、12×900×1,800mmで枚当たり1,950円と前月比変わらず。販売店側では、円安に転じたことで調達コストが再び上昇してきているが、需要者側の慎重な購買姿勢に変化はなく、新規注文がしにくい状況。目先、横ばいの見通し。

(11) 電線・ケーブル

日本電線工業会の電線受注出荷速報によると、建設・電販向けの4月推定出荷量は約2万4,400 tと前年同月比約2.6%減。2カ月連続で前年同月を下回った。荷動きに目立った変化はなく、需要に精彩を欠く状況が続いている。

一方、国内電気銅建値は海外相場安を背景に5月平均でt当たり118万円台と前月比5万円の下落。高止まりしていた銅価が今年初めて120万円台を割り込んだことから、需要者側の値引き要求が強まり、これに販売側が応じた。価格は、CVケーブル600V 3心38mm²でm当たり1,746円どころと前月比約4.3%の下落。足元では、銅価が再び上げ基調に転じており、軟化は一時的との見方もある。販売側、需要者側ともに銅価をにらみながらの価格交渉が続く

統計

とみられ、先行き、横ばいで推移する見通し。

※各資材の価格推移の出典は、『月刊 積算資料』。

3. おわりに

図一は、建設工事で使用される資材について、その価格変動を捉えることを目的とした「建設資材価格指数(全国主要10都市)」である。建設資材需要原単位の対象資材を勘案し、建築資材25品目と土木資材24品目を選択している。

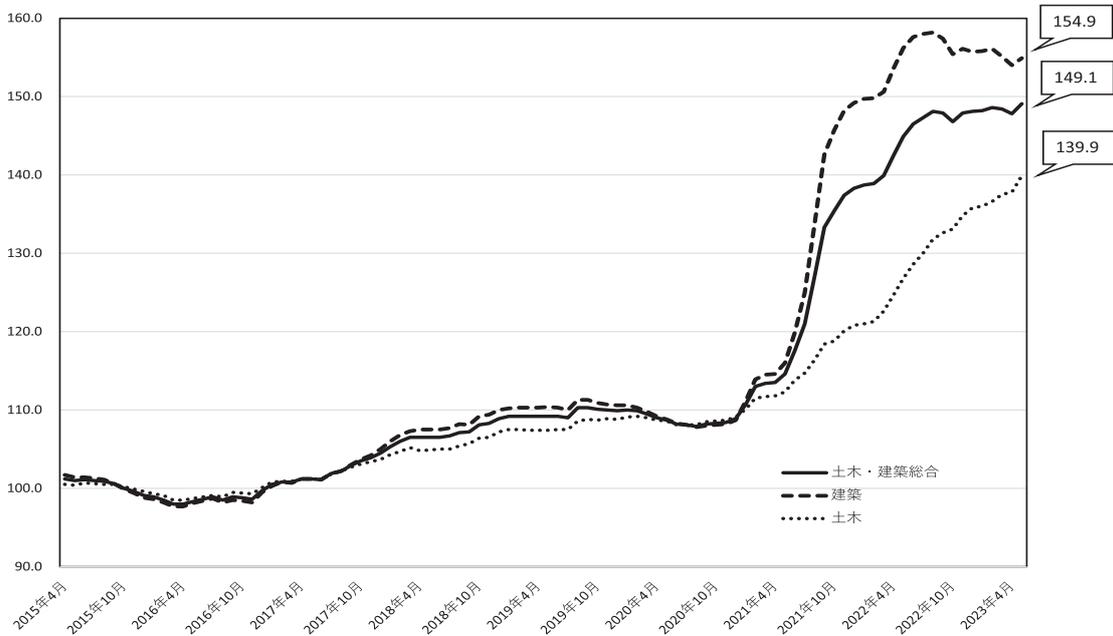
2021年夏以降、ウッドショックを背景とした木材価格の高騰で建築の指数が大きく上昇したが、2022年8月をピークに下落に転じている。足元では、合板市況の下げ止まりもあり、建築の指数は154.9(前月比+0.9ポイント)となっている。一方、土木の指数は、セメントや生コンクリートの騰勢を受け、139.9(前月比+2.1ポイント)と2015年以降の最高値を示している。

土木指数の上昇を受け、土木・建築総合指数は149.1(前月比+1.3ポイント)となり、前月比1ポイントを超えるのは昨年11月以来で高い上昇となった。セメントや生コンクリート価格の上昇基調は続いていることから、土木指数は上昇が続くとみられ、土木・建築総合指数は今後も高い水準を維持しながらの推移となる見通し。

(文責：坂下)

表一 建設資材価格指数の対象資材

①建築資材品目		②土木資材品目		
資材	品目	資材	品目	
01.セメント	1 セメント	01.セメント	1 セメント	
02.生コンクリート	2 生コンクリート	02.生コンクリート	2 生コンクリート	
03.コンクリート二次製品	3 コンクリート管類	03.コンクリート二次製品	3 コンクリート管類	
	4 コンクリートボール・パイル		4 コンクリートボール・パイル	
	5 コンクリート緑石・側溝		5 道路用等コンクリート製品	
	6 建築用空洞ブロック		6 土木コンクリートブロック	
	7 インターロッキングブロック		7 インターロッキングブロック	
	8 その他のコンクリート二次製品			
04.骨材	8 砂		04.骨材	9 砂
	9 砕石			10 砕石
05.瀝青材	10 防水工用アスファルト	05.瀝青材	11 ストレートアスファルト	
06.再生アスファルト混合物	11 再生アスファルト混合物	06.再生アスファルト混合物	12 再生アスファルト混合物	
07.普通鋼鋼材	12 H形鋼	07.普通鋼鋼材	13 H形鋼	
	13 その他形鋼(除くH形鋼)		14 その他形鋼(除くH形鋼)	
	14 鋼矢板		15 鋼矢板	
	15 棒鋼		16 棒鋼	
	16 構造用鋼管(含むコラム)		17 厚中板	
17 仮設材(H形鋼)	18 鋼管杭・鋼管矢板			
18 仮設材(鋼矢板)	19 構造用鋼管(含むコラム)			
19 仮設材(その他)	20 その他鋼材			
09.その他鋼材	20 その他鋼材		08.仮設材	21 仮設材(H形鋼)
	21 特殊鋼鋼材			22 仮設材(鋼矢板)
10.木材	22 製材(木造のみ)		23 仮設材(その他)	
	23 合板(厚6mm未満)			
	24 合板(厚6mm以上)			
	25 損料対象材(合板)			
		24 特殊鋼鋼材	09.特殊鋼鋼材	24 特殊鋼鋼材



図一 建設資材価格指数(全国主要10都市)

(一財) 経済調査会「建築・土木総合指数」より作成。2015年度平均=100とした指数。詳細は、(一財) 経済調査会HP参照 (<https://www.zai-keicho.or.jp/service/build/price/>)。